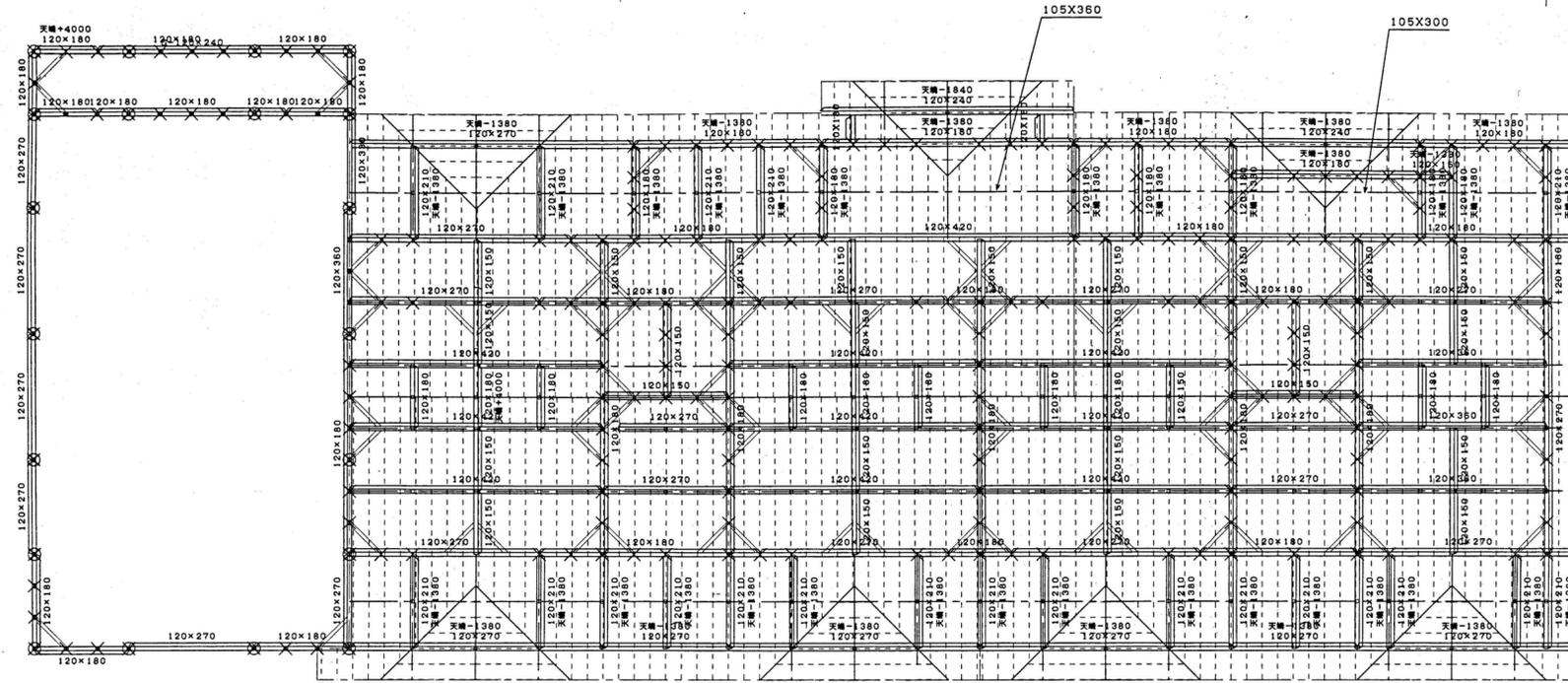


基礎伏図 縮尺=1:100

撤去凡例	
	既設土間コンクリートスラブ 撤去範囲を示す。

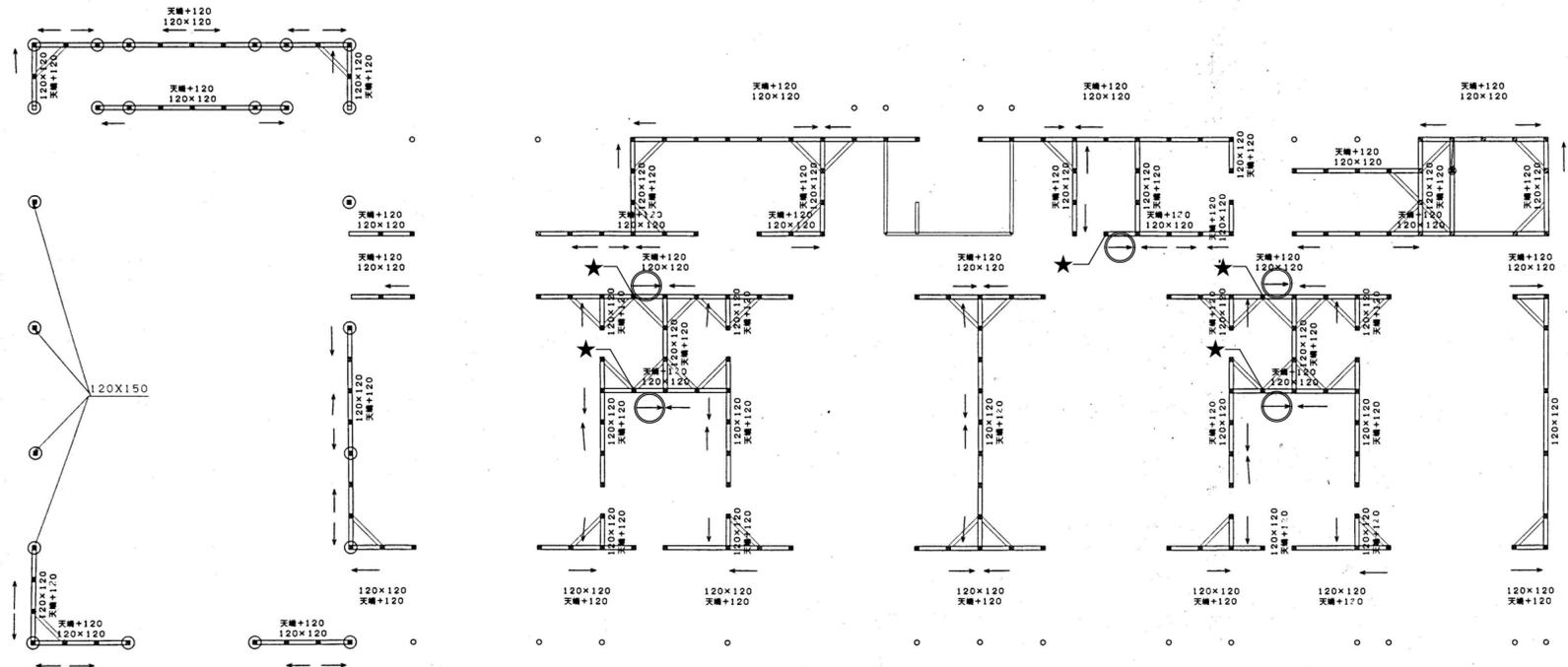
山崎町立城下幼稚園園舎新築工事	
基礎伏図	
縮尺	S=1:100
山崎町	

宍粟市	承認	設計	担当	設計年月日	縮尺	工事名称	木育施設(旧城下幼稚園)整備工事	図面番号 S-01
				R7. 10.	A2 -	図面名称	基礎伏図(現況・撤去)	



床伏凡例図

	梁 120×150カラ520	米松1等
	檜木 105×180	米松1等
	構木 105×180	米松1等
	母屋 105×180・300・360	米松1等
	垂木 45×90 ピッチ450	米松1等
	小屋束 105×105	米松1等 擦れ止め90X45タスキ掛けに全て取付けの事
	火打梁 105×105	米松1等
	筋違 90×90	米松1等
	当該層の管柱 120×120	米桐1等
	当該層の透柱 120×150・120	米桐1等
	下層の柱	



床伏図 縮尺 1:100

撤去凡例

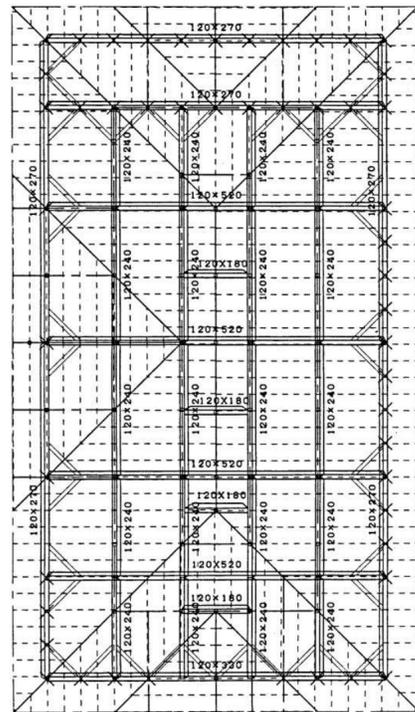
★	既設構造柱 撤去位置を示す	5カ所
○	既設筋交い 撤去位置を示す	5カ所

床伏凡例図

	土台 120×120	アビトン防腐処理材(証明書提出の事)
	火打土台 105×105	アビトン防腐処理材(証明書提出の事)
	スリタイ 90×90	米松1等 土台天端より1mまでクレオソート3回塗り
	当該層の管柱 120×120	米桐1等 土台天端より1mまでクレオソート3回塗り
	当該層の化粧管柱 120×120	米桐上小 土台天端より1mまでクレオソート3回塗り
	当該層の透柱 120×120	米桐1等 土台天端より1mまでクレオソート3回塗り
	当該層の独立丸柱 120×120	栓丸太末口120ハ イキシラテ コール3回塗り
	縦筋様 120×45・(和75×45)	
	横筋様 21×45ピッチ450	

山崎町立城下幼稚園園舎新築工事	
床伏図	
縮尺=1:100	21/44
山崎町	

承認	設計	担当	設計年月日	縮尺	工事名称	図面番号
			R7. 10.	A2 -	木育施設(旧城下幼稚園)整備工事	S-02
宍粟市					図面名称	土台伏図、小屋伏図(現況・撤去)

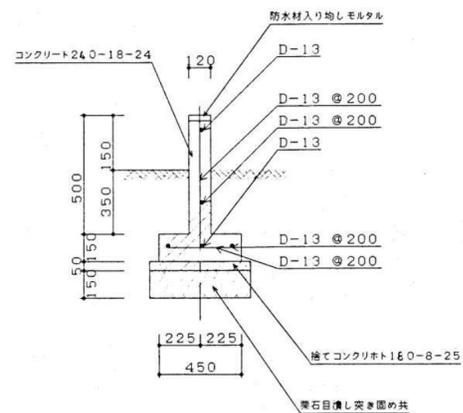


遊戯室小屋伏図縮尺=1:100

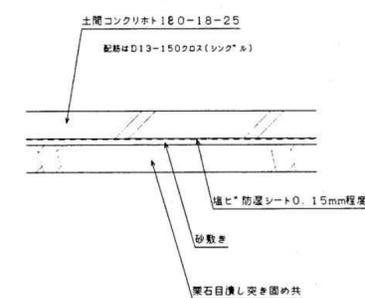
基礎伏凡例図	
○	アンカーボルト 1=450 16 ϕ イ
☒	床下換気口 600×200
▨	べた基礎 7150
▨	布基礎
□	床下換気口

小屋伏凡例図		
	梁 120X180カラ520	米松1等
	棟木 105×180	米松1等
	隅木 105X180	米松1等
	母屋 105×180	米松1等
	垂木 45×90 ピッチ450	米松1等
○	小屋束 105X105	米松1等
	火打梁 105X105	米松1等
×	下層の柱	

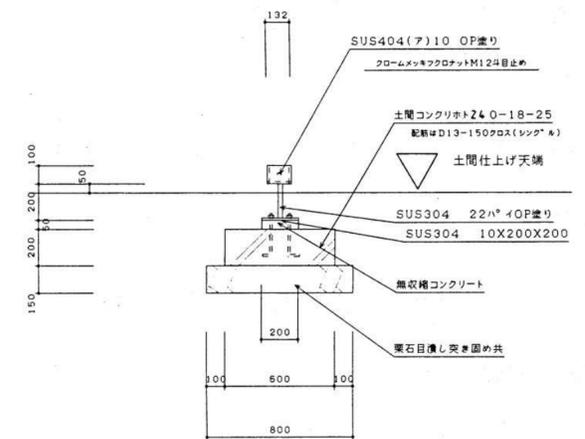
特記：鉄筋はSD295A規格品



布基礎詳細図 縮尺=1:20



土間コン詳細図 縮尺=1:20



遊戯室独立もこの図に準ず

独立基礎図 縮尺=1:20

山崎町立城下幼稚園園舎新築工事	
小屋伏・基礎詳細図	
縮尺	S=1:100
山崎町	22/44

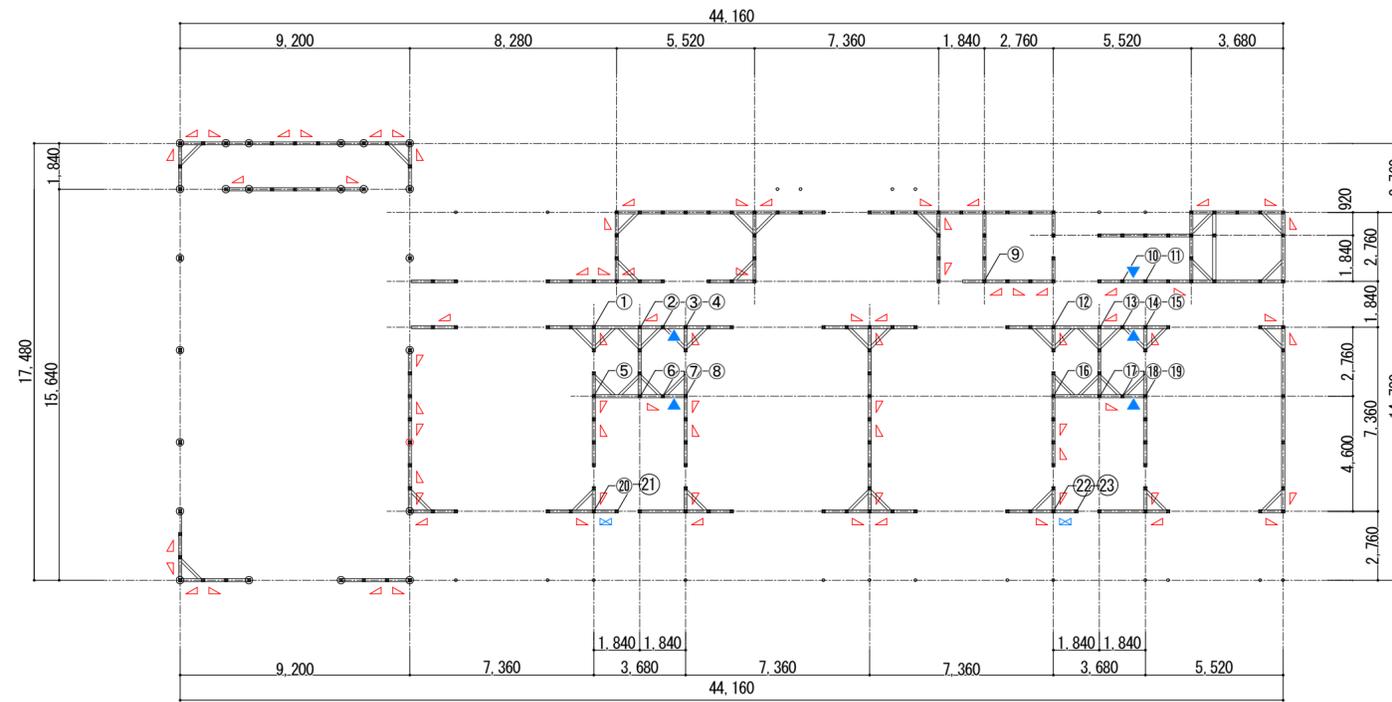
宍粟市

承認	設計	担当	設計年月日	縮尺
			R7. 10.	A2 -

工事名称	木育施設(旧城下幼稚園)整備工事
図面名称	小屋伏図、基礎断面図(現況・撤去)

図面番号
S-03

■N値法による金物の検討



■告示1460号第2号 表3による継手、仕口の仕様

N値の値	必要耐力 (kN)	仕様	仕様
0.0以下	0.0	い	短ほぞ差し及びかすがい打ち
0.65以下	3.4	ろ	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L
1.0以下	5.1	は	山形プレートVP2又はかど金物CP-T
1.4以下	7.5	に	羽子板ボルト又は短冊金物 (スクリークぎなし)
1.6以下	8.5	ほ	羽子板ボルト又は短冊金物 (スクリークぎあり)
1.8以下	10.0	へ	10kN引き寄せ金物
2.8以下	15.0	と	15kN引き寄せ金物
3.7以下	20.0	ち	20kN引き寄せ金物
4.7以下	25.0	り	25kN引き寄せ金物
5.6以下	30.0	ぬ	30kN引き寄せ金物

■1階柱脚柱頭金物算定表

耐力壁の撤去、追加に伴う影響がある柱について、柱脚柱頭の接合部についてN値法による検討を行う。

$$N = (A1 \times B1) \times H1 / 2.7 - L$$

H1=4.027-4.03とする。H1/2.7= 4.03/2.7=1.49

柱	方向	柱状況	パターン		壁倍率の低減率	補正值	A1	B1	L	N	接合金物	
											柱脚	柱頭
①	X	他柱	0.0	0.0							い	い
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	い	い
②	X	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0								
③	X	他柱	∠3.0	3.3□	-	0.0	0.3	0.5	0.6	-0.38	い	い
④	X	他柱	3.3□	0.0	-	0.0	3.3	0.5	0.6	1.86	と	と
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
⑤	X	他柱	0.0	0.0							と	と
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	2.0	4.4	0.5	0.6	2.68	と	と
⑥	X	他柱	0.0	∠3.0	0.8	2.0	4.4	0.5	0.6	2.68	と	と
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑦	X	他柱	∠3.0	□3.3	-	0.0	0.3	0.5	0.6	-0.38	い	い
⑧	X	他柱	□3.3	0.0	-	0.0	3.3	0.5	0.6	1.86	と	と
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	2.0	4.4	0.5	0.6	2.68	と	と
⑨	X	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑩	X	他柱	∠3.0	□3.3	-	0.0	0.3	0.5	0.6	-0.38	い	い
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
⑪	X	他柱	□3.3	0.0	-	0.0	3.3	0.5	0.6	1.86	と	と
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑫	X	他柱	0.0	0.0							い	い
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	い	い
⑬	X	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	い	い
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑭	X	他柱	∠3.0	3.3□	-	0.0	0.3	0.5	0.6	-0.38	い	い
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
⑮	X	他柱	3.3□	0.0	-	0.0	3.3	0.5	0.6	1.86	と	と
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
⑯	X	他柱	0.0	0.0							-	-
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑰	X	他柱	0.0	∠3.0	0.8	2.0	4.4	0.5	0.6	2.68	と	と
	Y	他柱	0.0	0.0								
⑱	X	他柱	∠3.0	□3.3	-	0.0	0.3	0.5	0.6	-0.38	い	い
	Y	他柱	0.0	∠3.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
⑳	X	他柱	∠3.0	×5.0	0.8	0.0	1.6	0.5	0.6	0.59	ろ	ろ
	Y	他柱	∠3.0	0.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
㉑	X	他柱	×5.0	0.0	0.8	0.0	4.0	0.5	0.6	2.38	と	と
	Y	他柱	0.0	0.0								
㉒	X	他柱	∠3.0	×5.0	0.8	0.0	1.6	0.5	0.6	0.59	ろ	ろ
	Y	他柱	∠3.0	0.0	0.8	-2.0	0.4	0.5	0.6	-0.30	と	と
㉓	X	他柱	×5.0	0.0	0.8	0.0	4.0	0.5	0.6	2.38	と	と
	Y	他柱	0.0	0.0								

特記事項 「パターン」 … 柱両側の耐力壁の取り付けを示す。 ∠: 筋かいツギル □: 面材耐力壁

■N値計算考察

既設耐力壁撤去部については、柱に取りつく筋交い等が無くなる為引き抜きは増大せず、耐力壁新設部については、もともと壁で無かった部位に耐力壁を設ける為、N値計算の結果に応じて必要な金物を設置するため、既設接合部仕口よりも危険性は増大しない。